

白根市商業振興協議会（河内新平会長）が五十八年度事業として取り組んできた、『地域小売商業近代化対策調査』の結果がまとまりました。この調査は商業者、商店街、商工会、行政と地域が一体となつて、白根市商業の近代化を今後どのように進めていくべきかを、いろいろな方向から分析・検討したもので、それぞれの分野での改善点などを提言しています。

今回の調査結果に示された実態を見ると、都市間の商圈競合はますます厳しさを増していますし、通信販売に見られるような新しい販売形態や、ホームセンター、インストアペーカリーなどの新業態の登場で、消費者の嗜好も多様化の一途をたどっています。今回のクローズアップでは報告会での提言と、これからの方針について、関係者の座談会をまとめてみました。

あなたはどう考えますか…

「お店はだれのためにあるもの」

求められる経営体質の改善

商店の基本理念は、「店はお客様のためにあるもの」ということです。現代風に言えば「消費者ニーズにあった店づくり」を常に心がけていくことが大切です。

本市においては、白根地区の商

四つの問題点をあげ、個店の近代化への遅れに反省をうながしています。その問題点として――

- ① 同業者が多く競争関係は厳しく、業態、規模、店舗などに差が見られず、個性的な店づくりがされていない。
- ② 従来から白根、西蒲原地域の外販が主力で、店売りに対し積極的となり、店舗改装などの積極的投資がなされていない。
- ③ 町内会活動と商店街活動の区別が十分に理解されず共同事業に消極的。

④ 時代の流れに即応した経営体质づくりの研究改善努力が十分になされていないなどとしています。

そして「今後ともこうした問題

行政は商業振興のビジョンづくりを

一方、商業振興には商工会や市の指導的役割りが極めて重要です。

お互いに機能分担を明確にして、目的に向かい、商業者と一体となって進むことが必要と、協議会では報告しています。商工会の役割としては――

- ① 商店街の中での商業集積の中心地区を策定し、地域商業者のコンセンサスを得ながらその機能充実を図っていく。
- ② 都市計画について理解し、予想される環境変化に対応できる柔軟な姿勢を持ち、都市計画に商業集積の中心地区の機能充実を図っていく。
- ③ ①②の事業を推進していくため行政、商業者とともに検討協議を行い、必要な助成制度や協力体制を確立して意見具申を行う。

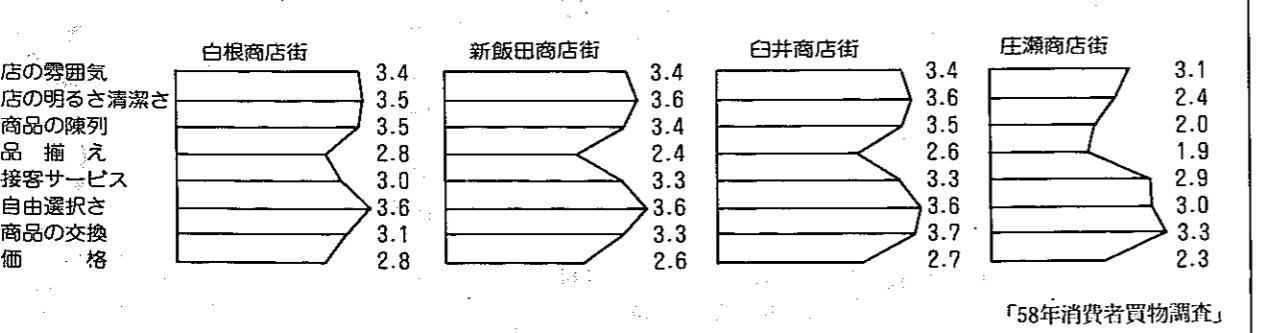
また、市の役割として、単に金融面からの援助だけではなく、市の全体像の中から商業問題をとらえ、市の総合計画と整合性のある長期的な商業ビジョンを策定することを求めています。

(次ページへ)

商店街の振興



消費者から見た市内商店街の印象（得点5点満点）



〔白根市商業振興協議会〕
構成は、商業者代表（十一人）市議会産業企業常任委員長、商工会役員、それに学識経験者として中小企業診断士がメンバーです。

